

体育大会に見る生徒の姿、四中の姿 三輪 秀文

かつて「秋晴れ」というと、透き通るような青い空と、さわやかな風が、五感に染み渡る一日をイメージしたものです。ところが近年、9月の晴れの日、真夏を彷彿とさせる日が多く、体育大会当日も、四中の上空にはまだ夏が居座っているような一日となりました。そんな熱中症を心配させる日差しと暑さの中で行われた四中の体育大会だったのですが、何かしらさわやかな余韻を残して幕を閉じました。

子どもたちの一つ一つの競技に向かう一生懸命な姿勢と真剣なまなざし。勝とうが負けようが、順位が分かっているようが、距離が離されているようが、最後の最後まで競技に一生懸命なのです。しかも、競技している者の多くは、真剣なまなざしの中にも笑顔を浮かべているのです。そして、応援席でどんどん広がっていく仲間への惜しみない



声援。こんなにも素直に仲間へ声援を送る体育大会はあったでしょうか。競技者の心と声援を送る者の心が、互いに互いを鼓舞し合っているのが伝わってきました。この全校の一体感が、四中体育大会の宝であることを実感しました。

そして、もう一つこの体育大会で感じたことがあります。四中の子どもたちは、古びた言葉のようですが、「団結」であるとか、「まとまり」であるとかを求めているのではないかと思います。色別対抗のむかでリレーが始まる前には、各色の応援席前では、自然に大きな大きな円陣が組まれていったのです。学年を問わず、男女を問わず、生徒と先生を問うこともなく、



四つの大きな円陣が生まれたのです。それが演出したのは問うよしもありませんが、あたかも四中を象徴しているかのような四つの輪（和）でした。それに、あんなに自分のクラスや色が勝利したことに喜びを身体で表現する素直さ、仲間のひたむきさに応援

する心は、暑い日ではありましたが、観る者に一服の清涼飲料水を与えるかのようなようでした。

また、開会式と閉会式では、生徒会の代表が、体育大会を無事に迎えられた喜びに触れ、震災や豪雨の被災地への配慮ものぞかせていました。その率直な言葉には、大人ながらに非常に戒められる思いでした。

体育大会に足をお運びいただいた保護者や地域のみなさんにも、生徒たちの一生懸命さやひたむきな姿が伝わったものと確信しています。暑い日ではありましたが、熱い声援をいただきましたことを心より感謝いたします。